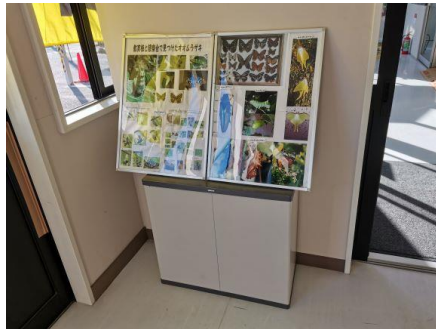


●地域説明会 2 会場（八幡・宇治市）とも成功する

里山の会では4年連続して地域説明の展示会を開催しています。今年に初回は八幡市の四季彩館で2月6日（土）10時開演で開催しました。朝市のお客さん、また前夜からの宿泊客さんが多数観覧にこられました。とりわけ大東市から幼児二人をバンナーカーに乗せておひとりで松井駅から農道を散歩して四季彩館まで来てくださいました。流れ橋を見学しながら、うまく出会えたら、城陽市に來ているコウノトリの飛翔を見られるかもしれないとお知らせしました。この日は真冬とは思えないほど晴天のあたたかいすばらしい天気でした。翌日の7日（日）も曇り空でしたが寒さはそれほどではなく宇治市市役所横の生涯学習センターが会場でした。ここは昨年に引き続き2回目の会場でした。市の中心で市役所が開いておればかなりの来館者があるところなのですが休日でもあり、センターで予定されていた催しがコロナウイルス感染予防のために中止となっていることを知らないで来られた皆さんに案内をしてお覧になっていただきました。ここでは源氏物語の宇治10帖の舞台でもありますし、用意した写真54枚を全部展示しました。しっかり解説文を読んで完璧に鑑賞するとかなりの時間が必要です。花を眺めるだけではもったいないと熱心にご覧になっているようでした。また昆虫にもすごく関心を持っている小学生も来られていて熱心に質問されていました。特に金田さんが質問に快く答えられていたので満足してお帰りになりました。二つの会場には問題点が多くありましたが、内容が新鮮で写真が中心だったので評判が良かったです。



●残る3会場の案内を強化しよう

11日は京田辺市で中部住民センターが会場になります、ここは初めての開催なのですが、自動車でお越しには大変便利です。14日は木津川市のいずみホールです。少し場所が込み入ったところですが静かな住宅地にあります。今年で2年続きでの開催となります。ここではネパールで十数年間生活されていた戸田裕子さんが最近定住を決意されて恭仁京近くの古民家を改造中のところご無理をお願いして「日本とネパールの文化や暮らしの違い」と題してお話をいただきます。山岳民俗が大切に守ってきた文化が失われようとしているとのこと、しかしそれは・・・」とお話を聞いて今に生かしていきたい日本の課題にもつながるのではと気づかされるお話だと思います。ご期待ください。また20日の城陽市文化パーク会場では京都市雲ヶ畑で地元の方々が山林地主と一緒に貴重な植物などの保存に取り組まれているお話をお願いしています。きっと二つの会場でのお話は皆さんご期待に応えられる熱の入った現場でのものでご満足いただけると思います。多数のご参加をお願いします。

●木津川希少種植物調査管理業務管理地 40 ヲ所 管理面積 16004 m²に確定

これまで里山の会が継続できた貴重植物などの調査や市の結果の資料などを高く評価いただき河川協力団体に認定されています。数年前から木津川の希少植物の調査と管理を行う事について受注ができています。里山の会はこれまでからこうした活動を行ってきていましたのでそれほど違和感なく取り組みを行うことができました。今年は調査と除草がうまくかみ合い管理地がようやく、確定しました。事業を開始してはじめてのことです。管理地面積も管理地図と完全に一致させることができました。簡単なことですが、長年できなかった難しいことでした。スタッフが揃いみんなが深く理解しあって取り組むことになって初めてできたことです。

●ヤマトサンショウウオ（旧名：カスミサンショウ）の卵嚢が発見できました

数年前に成体を発見して、卵嚢が見つかりこの池はヤマトサンショウウオが確実に生育している大変貴重な場所だと認識してきました。地主さんとも連絡を取り京田辺市や京都府と連絡を取って観察調査を続けてきました。今年はどうなることかと気をもんできました。池に土砂が流入したので、それを取り除いたので環境が変わったのでどうなることかと心配していました。例年通り卵嚢が見つかりホッとしました。今回は、上の池でも。下の池でも卵嚢が発見されました。心配していた環境の変化は影響がないようでした。ほかにいい場所がないのではないのでしょうか。今のところ唯一の保護地なので大切にしていきたいです。

●イノシシ一度に3匹捕獲、かなり増殖しているようです。監視カメラで3回も撮影されています

去年は筍が全滅させられたと農家の声を大変多く耳にしました。今年の狩猟期間で18匹も捕獲したと聞きおよんでいます。先日の事務局会議で一度に檻に3匹のイノシシが捕獲されたと報告がされ、その写真が示されました。子どものイノシシでした。それほど野生の頭数が増えている証拠ではないのかと思います。ヤマトサンショウウオの生育池の付近でも足場になっていたところもすべて掘り返しすごい様子になっていると報告されました。里山農園のイノシシ対策をこれまで以上に気を使わなくてはならないようになってきているのです。特にこれまで強調されてきたイノシシ柵の外周の雑草を刈り取ることがいよいよ緊急の課題に迫っているようです。季節が変わる芽吹き迄の期間で対策できるかにかかっていると思います。

●竹蛇籠・中聖牛を取り組んで シリーズでお伝えしますその一回目

里山の会は、発足以来木津川で魚とりを取り組んできた。こども達も大人も期待に胸をふくらまして参加してきた。往復はがきでの参加申し込み方法であった。はがきが800通も押し寄せてきた。すごい人気でライフジャケットをどんなにかき集めても100着なので圧倒的多数をふるい落とさなければならないことになった。スタッフも大変な数を集めなければならないので大変だった。小学校の時代にふるい落とすことになるので胸が痛い。だから次年度から回数を増やし地域別の開催方法に変えた。それでも1回200人以上の応募があった。回数を増やしたことで増水、渇水、台風などの出来事で中止する回数が増えてしまった。また同じ会場での開催にもなって、二番煎じは魚がいなくてもたびたびあった。また数年の中でまったく魚が取れない会場も発生した。実際魚がいらないのが続いた。川では産卵する場所がないことに気づき何とかしなければということが続いた。魚の産卵場所がないことや川の環境が大きく変化している異変を知ることになって、河床低下の現状などを知った。

今週終わり